

日本文化・新嘗祭
に関する調査

令和8年6月13日

責任者：（一社）日本学ユニバーシティ理事 石川博信

Japanology University

富嶽三十六景

神奈川沖
波裏

江戸の風景

日本学ユニバーシティ | 目的・方法

本調査の目的 日本文化と日本人の精神性、および新嘗祭に関する認知・経験を調査すること。

調査方法 株式会社クラウドワークス社のオンラインシステムを利用。

調査完了 令和8年6月13日（2026年6月13日）

回答数 1,000件（記述なし・オールチェック式）

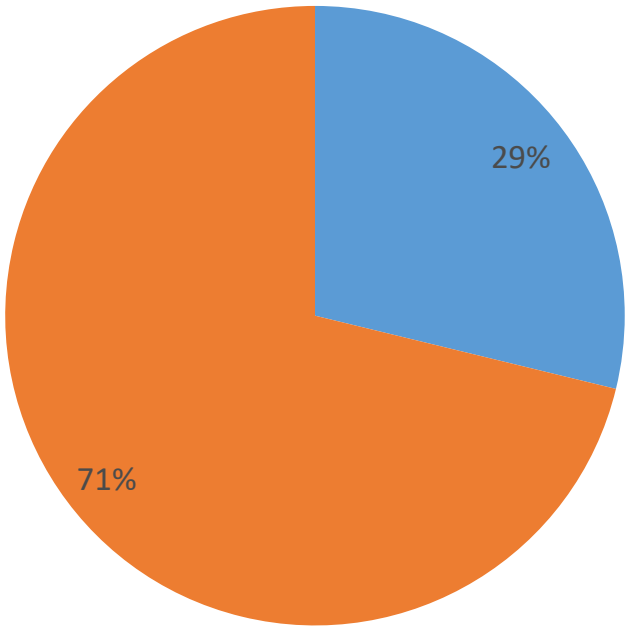
責任者 （一社）日本学ユニバーシティ理事 石川博信

設問構成：性別／年齢／日本の魅力（複数選択）／人生観（複数選択）／新嘗祭認知・経験／ボジョレー・ヌーボー・ハロウィーン経験

回答者属性

n=1000

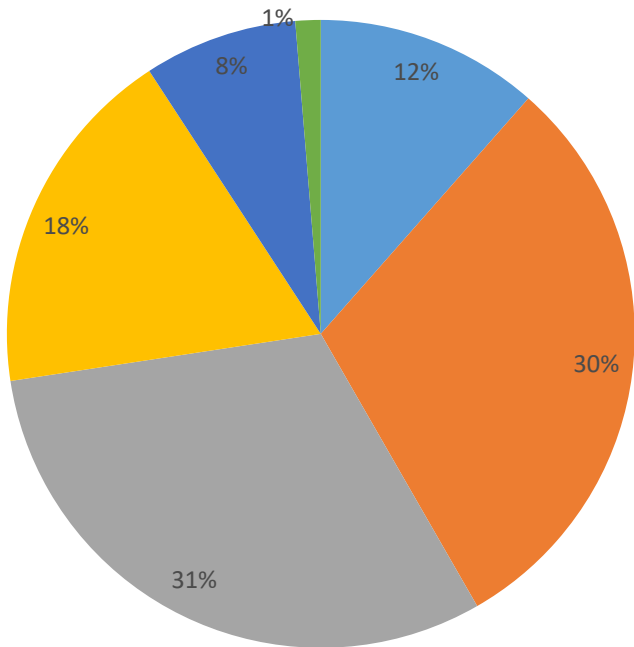
①性別



■ 男性 ■ 女性

71.2%
女性回答者

②年齢



■ 20代以下 ■ 30代以下 ■ 40代以下 ■ 50代以下 ■ 60代以下 ■ 70代以上

61.1%
30～40代以下

1,000
回答数

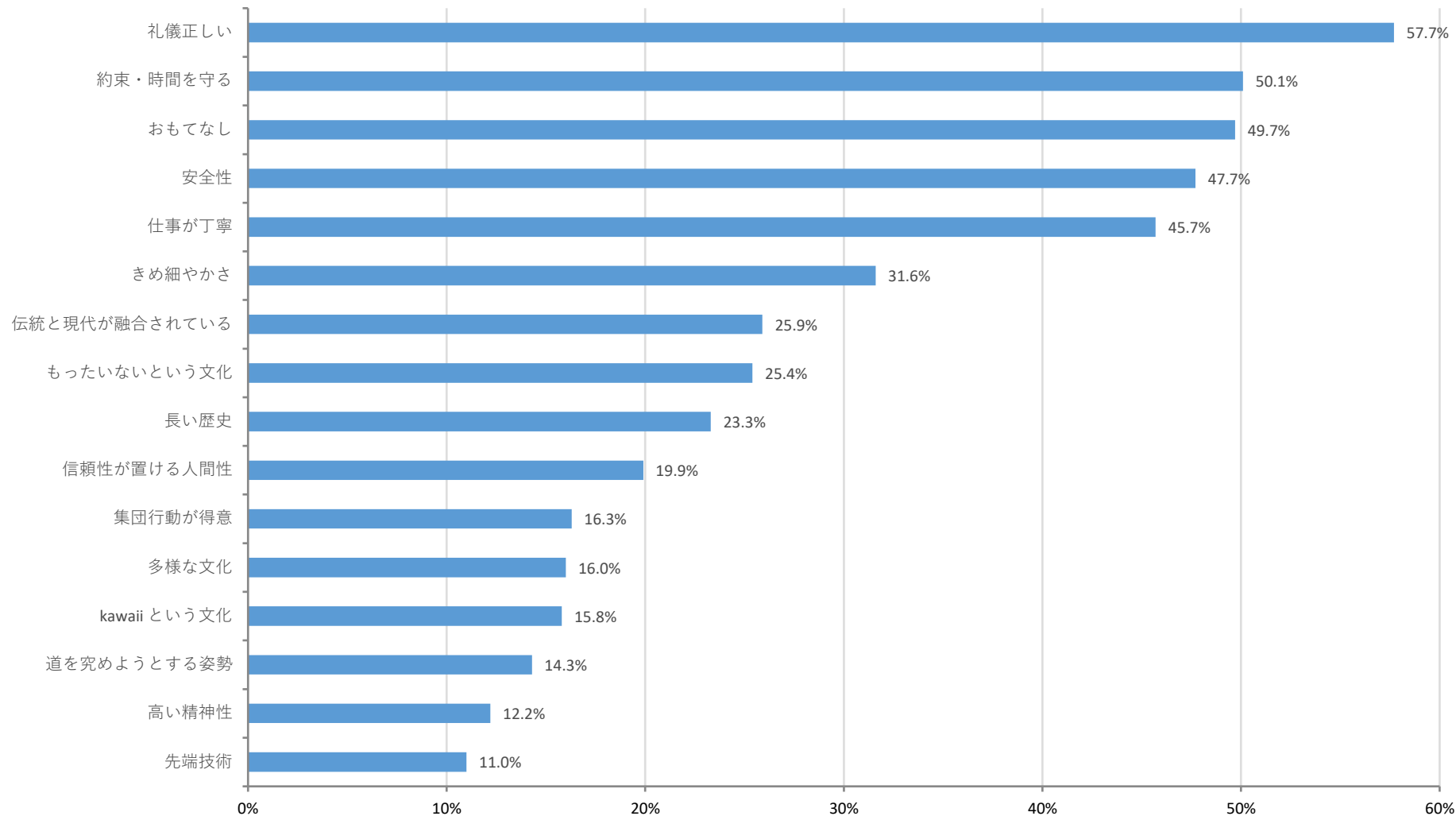
③日本の魅力は何だと思いますか

複数選択 | 回答者に占める選択率

平均選択数：4.63

4.63項目

上位は「礼儀」「時間・約束」「おもてなし」「安全性」「仕事の丁寧さ」。日本の魅力は、文化財そのものよりも“ふるまい・信頼性”として捉えられている。



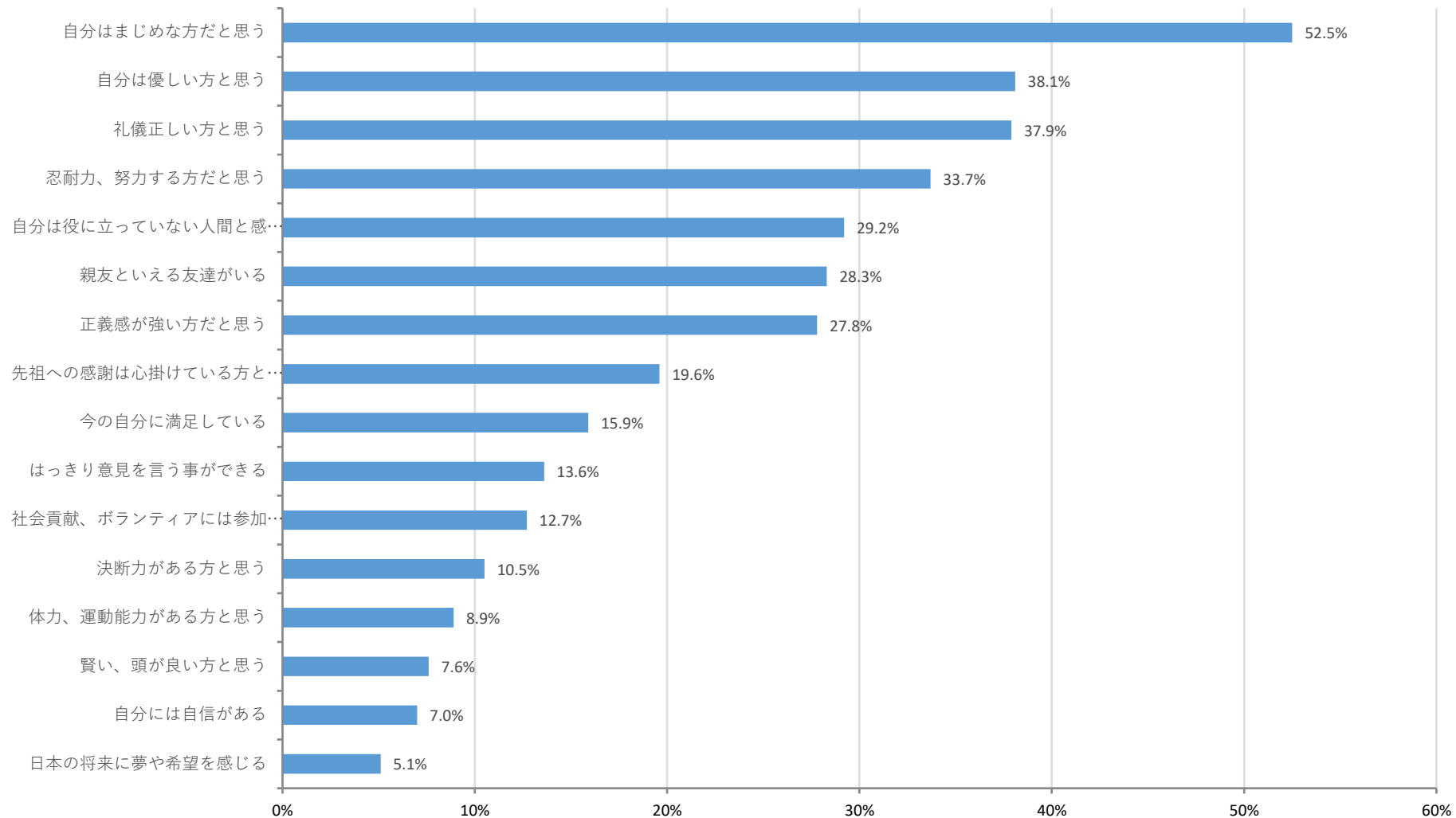
④ 人生観について

複数選択 | 回答者に占める選択率

平均選択数：3.48

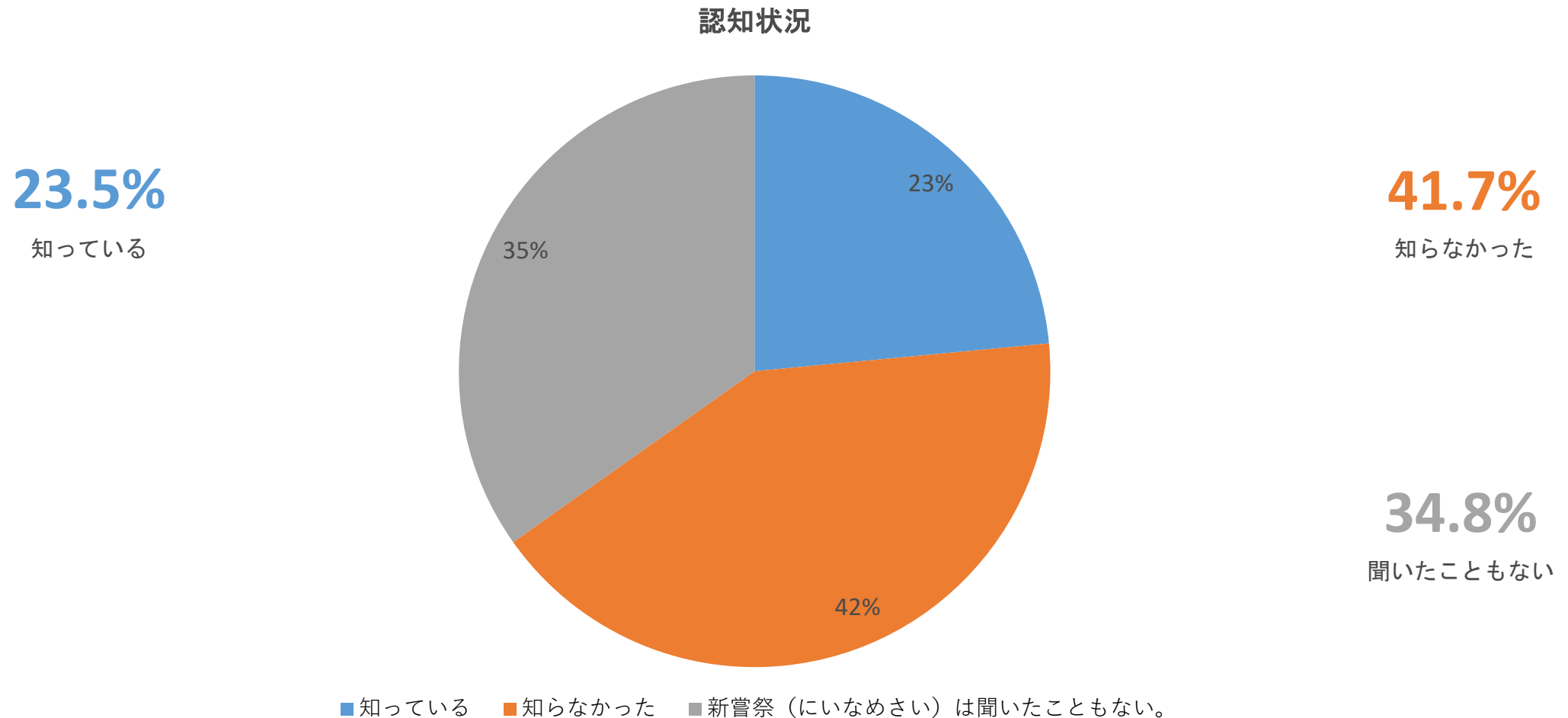
3.48項目

「まじめ」「優しい」「礼儀正しい」が上位。一方で「役に立っていないと感じることがある」も約3割となり、自己肯定感の課題も見える。



⑤ 勤労感謝の日が新嘗祭の日と知っていますか？

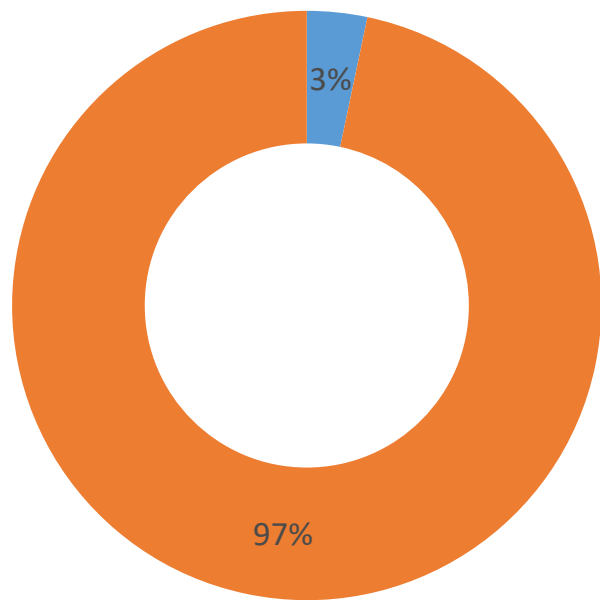
単一選択



⑥⑦新嘗祭の経験・伝統性の認知

単一選択

⑥ 新嘗祭をお祝いしたことがありますか？

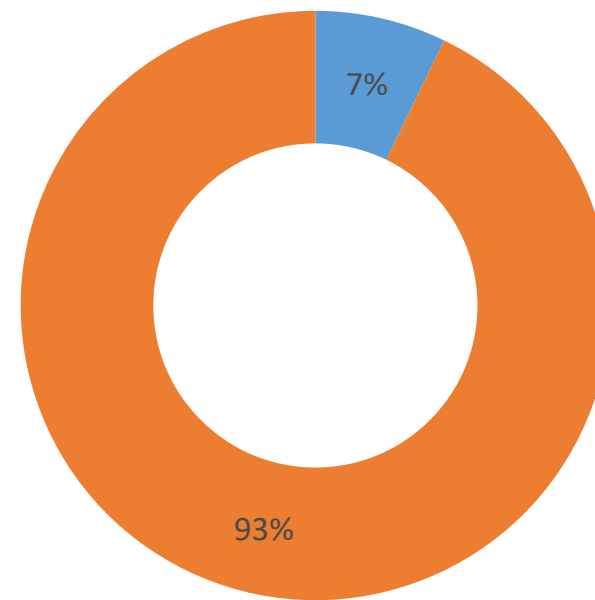


■ したことがある。 ■ したことがない

3.3%

お祝いしたことがある

⑦ 世界で一番伝統ある収穫祭と知っていましたか？



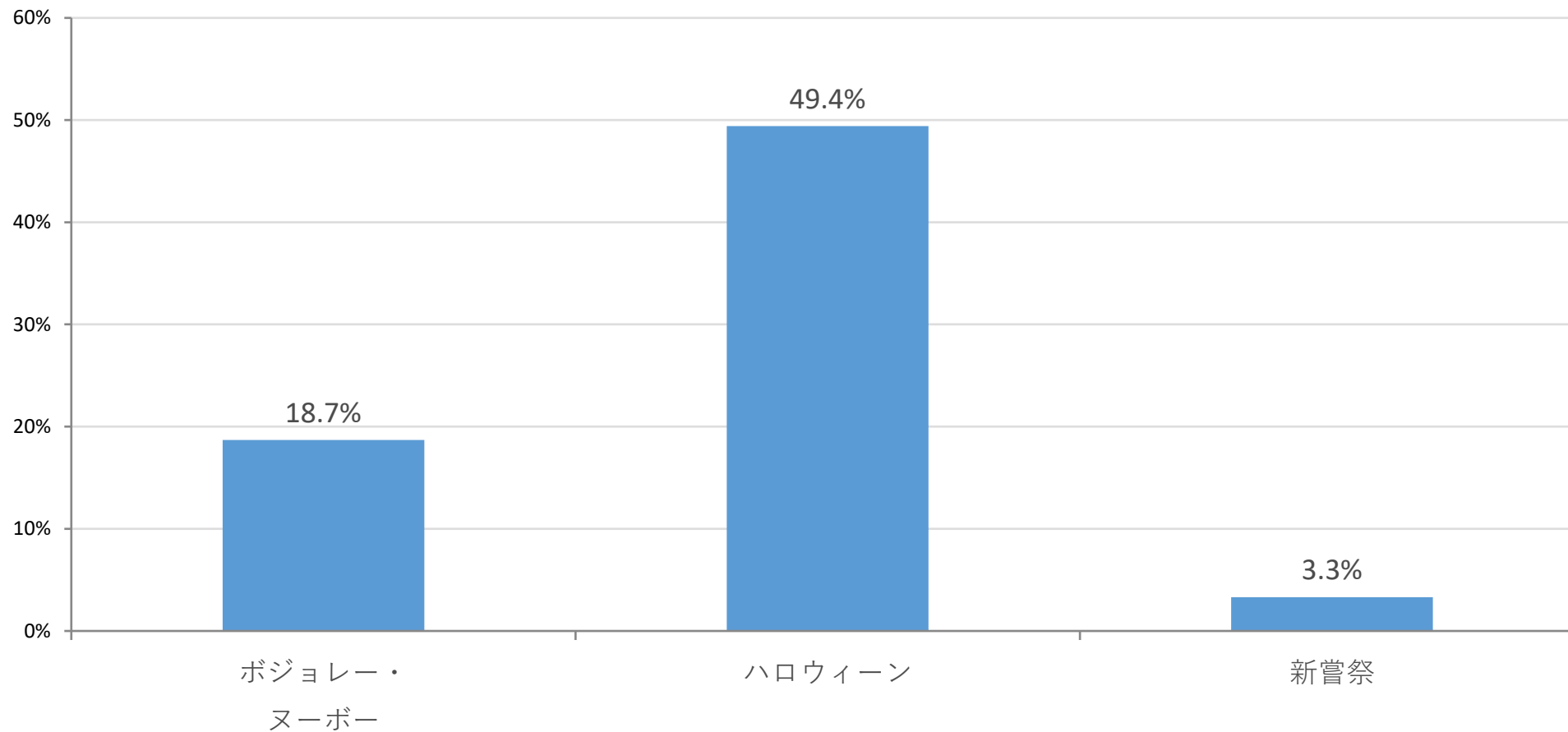
■ 知っている ■ 知らない

7.2%

伝統性を知っている

⑧⑨ 季節イベント経験の比較

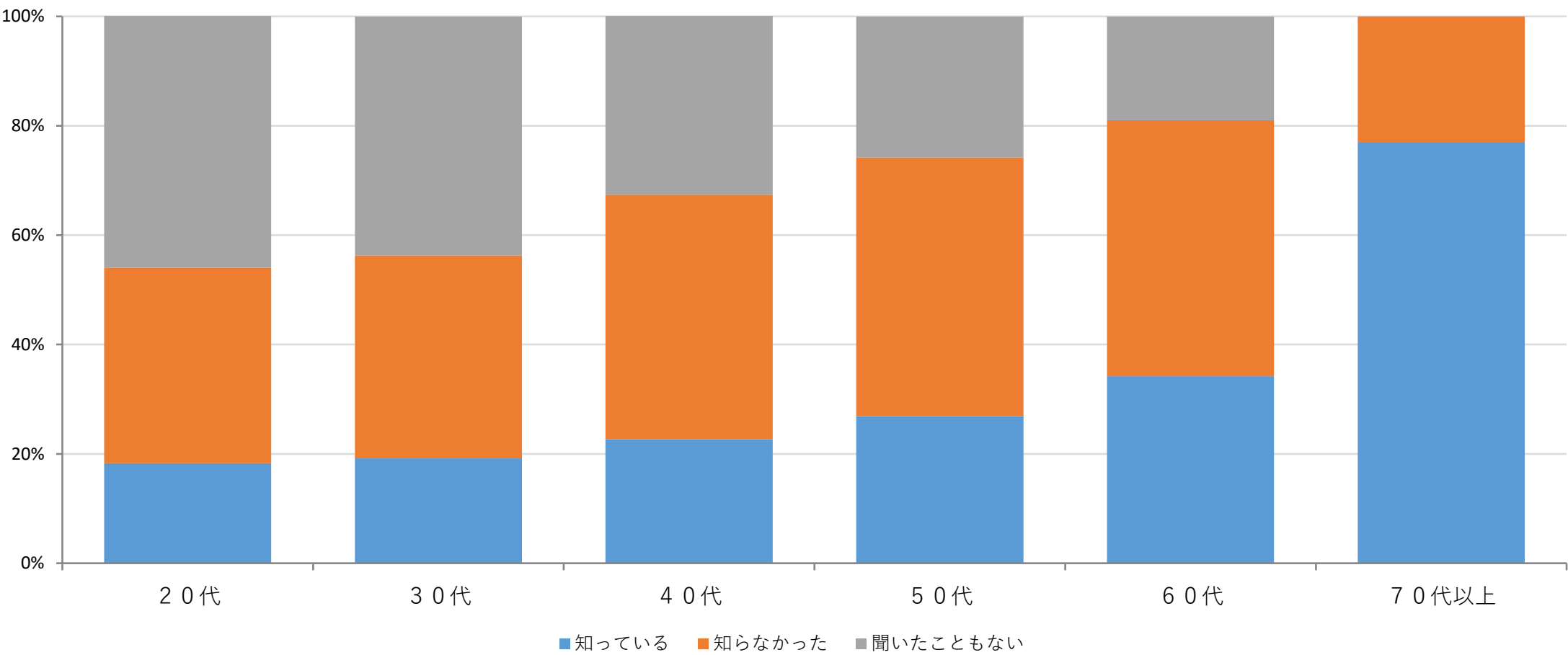
ボジョレー・ヌーボー／ハロウィーン



生活文化としてはハロウィーン経験が約半数。新嘗祭は「知っている」よりも「実際に祝う」が大きく低い。

年齢別 | 勤労感謝の日と新嘗祭の認知

各年代内構成比



年代差はあるものの、全体として「知らなかった」「聞いたこともない」が多数派。新嘗祭の啓発余地は大きい。

調査結果サマリー

主要な示唆

1

日本の魅力は「信頼されるふるまい」

上位は礼儀正しさ、約束・時間を守る、おもてなし、安全性、仕事の丁寧さ。日本文化の価値は“行動規範”として認識されている。

2

新嘗祭は認知・経験ともに低い

勤労感謝の日が新嘗祭の日と知っている人は23.5%。祝った経験は3.3%。

3

現代イベントとの体験差が大きい

ハロウィーン経験は49.4%に対し、新嘗祭経験は3.3%。日本の伝統行事を生活文化に戻す余地がある。

活用方向：11月23日を「勤労感謝」だけでなく、新嘗祭の意義を学び、感謝を行動化する日として再提案する。